

研修報告書 No.33

所 属： 東京大学医学部附属病院

研修先： 土佐市民病院

私は土佐市立土佐市民病院で1か月間の地域医療研修を行いました。本稿では、その期間に経験し、学ぶことができた内容について報告します。

研修では、一般内科外来、病棟診療、救急外来などを担当しました。救急や病棟業務の経験はありましたが、一般外来を主担当として診療するのは初めてであり、自ら診療方針を立てる貴重な経験となりました。

一般内科外来では、インフルエンザやCOVID-19の流行もあり、発熱を主訴とする患者さんが多く来院されました。一方で、それ以外にも多様な主訴の患者さんがおり、軽症例が多い中で入院が必要な患者さんを見極める難しさを実感しました。どの検査や治療が本当に必要なのかを考えながら診療する中で、多くの反省もありましたが、指導医に相談しつつ、自分に不足していた視点を学ぶことができました。大学病院では網羅的に疾患を否定していく診療が求められることも多いですが、地域医療では「必要な人に必要な検査を行う」判断力の重要性を学ぶことができました。

また、患者さんとのコミュニケーションの難しさも強く感じました。突然の質問に言葉が詰まったり、自分の説明が十分に伝わっていないと感じたりする場面がありました。正確な医学知識を持つことはもちろん重要ですが、それを医療者ではない患者さんにどのように分かりやすく伝えるかを常に意識する必要があると学びました。自分が主担当として診療を行うことで、一人の医師として求められる責任や姿勢をより強く意識するようになりました。

外科や整形外科の手術にも参加する機会がありました。丁寧な説明を受け、できるだけ実際に手技に参加できるよう配慮をしていただきました。また、救急外来ではCPA症例を経験し、迅速な対応の中でACLSの実践や気管挿管を行いました。焦りを感じる場面もありましたが、上級医の指導のもとで対応することができ、非常に学びの多い経験となりました。

1か月間高知の医療に触れて感じたことは、地域との結びつきの強さです。複数の診療科に継続して通院している患者さんや、家族単位で受診される方が多く見られました。また、健康診断や予防接種といった予防医療、介護施設や在宅医療との連携も積極的に行われており、地域住民の生活全体を支える医療であることを実感しました。土佐市民病院は地域の中核病院であり、災害拠点病院にも指定されています。規模は大きい一方で若手医師は少なく、医師不足について言及される先生もいました。都市部で専門分化が進む中、地域医療では自分の専門領域以外にも対応できる総合的な力が求められます。その役割を担っている先生方の姿に深く感銘を受けました。私自身も土佐市と同規模の地域出身であり、全国的に同様

の課題があることを感じています。今後は自分も地域医療を支える一助となれるよう努めたいと考えるようになりました。

仕事以外でも高知の魅力に触れることができました。桂浜や仁淀川、龍河洞といった豊かな自然を訪れ、カツオをはじめとする特産品も堪能しました。飲食店では地元の方々と交流する機会もあり、温かく迎え入れていただいたことが印象に残っています。

最後になりますが、高知県の地域医療に携わる機会を得たことは、私にとって大変貴重な経験となりました。研修開始前から終了まで、先生方や事務部の皆様、高知再生医療機構の皆様に手厚く支えていただき、安心して研修に臨むことができました。改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。